

(様式)

美馬市立木屋平小学校：「学力・学習状況」改善プラン

1 現状・課題

学 力	<ul style="list-style-type: none"> 前年度までの取り組みの具体目標として、漢字仮名まじり文の書き取りを挙げて取り組んできた。国語をはじめそれ以外の教科学習など、あらゆる機会に漢字指導の充実を図ることで、児童の書く文章中の漢字の割合が高まってきている。しかし、文章を書く力や読み解く力まで十分に身につけているとは言えない。 少人数学級のため、個別指導を受けたり発表したりする機会が多く、児童にとってはよい学習の場となっているが、一人一人の学習内容の習得状況及び学力には大きな差が見られる。 図表やグラフの読み取り方の習得や学習内容の直感的な理解を促進するため、実物投影機や電子黒板などの ICT 機器の活用場面を多くできるよう工夫しており、次第に効果が現れてきている。
学 習 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 少人数学級であり、全員に発言する機会を与えよう努力しているが、理解力や表現力に個々の差があり、授業の進め方に、より工夫が必要である。 授業の準備物や提出物などの確認が十分できていない児童も見られる。 宿題等の家庭学習の習慣が身につけてきている。

2 目標等

(1) 学力について

重点目標：基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
漢字・計算などの基礎学力を向上させる。	既習の漢字・計算テストで、全員が6割以上の正答率を上げられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 朝の活動(チャレンジタイム)を有効に使い基礎的な学習内容の定着を図る。 授業時間内に漢字・計算の復習および反復練習を取り入れる。 家庭学習の定着を図る。 漢字の先取り学習を取り入れるなど、授業の組み立てを工夫する。 既習の漢字のテスト等を繰り返し行い、知識の定着を図る。 学習進度の遅れがみられる児童には休み時間や放課後、及び長期休業期間を利用し、補習授業等を実施する。 	4・3・2・1	
文章をじっくりと落ち着いて読み、書かれている内容について正確に理解する力を伸ばす。	文章読解についての国語・算数テストで全員が6割以上の正答率を上げられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 音読や読み聞かせ、視写などの学習活動を通して、読解力の向上を図る。 朝の活動(チャレンジタイム)に読書の時間を設定し、活字を中心としたさまざまな分野の本を幅広く読む習慣をつける。 文章を読み、要約したり図に表したりする活動をできるだけ多く取り入れる。 ICT 機器を効果的に活用する。 学習進度の遅れがみられる児童には休み時間や放課後、及び長期休業期間を利用し、補習授業等を実施する。 	4・3・2・1	
自分の考えを筋道を立ててわかりやすく話したり書いたりすることができ。	作文や発表を5段階で評価し、全員が3以上の評定が得られるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 作文の基本的事項、発表の仕方等表現力を高める手だてを工夫する。 各教科の授業内において自分の考えを発表する場をできるだけ多く設定する。 朝・帰りの会で発表の場(1分間スピーチ等)を設ける。 発表メモ等論理的に意見を述べることができるよう手だて 		

		てを工夫する。 ・全校朝や集会など、児童が 意見を発表できる場をより多 く設定する。	4・3・2・1
--	--	---	---------

(2) 学習状況について

重点目標：学習課題に集中して取り組もうとする意欲を育てる。 毎日の家庭学習や次の日の学習準備など、望ましい家庭学習習慣の定着を図る。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
学習課題に対して、一人一人が自分なりのめあてや目標を持って意欲的に取り組めるようにする。	帰りの会等の中での振り返りに、学習への取り組みに関する項目を設定し、よく頑張ったと答える児童の割合を80%以上に引き上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入場面において、学習目標を明確にするとともに、一人一人が具体的な学習目標を設定できるようにする。 ・教室掲示に子どもがめあてや考えを盛り込むなどの工夫をし、学習への意欲を高める。 ・板書やワークシートの内容を工夫し、子どもたちが楽しみながら集中して課題に取り組めるようにする。 ・1時間の学習の中で、子どもががんばりを認め、ほめるようにする。 		
学年に応じた時間や方法を設定し、家庭学習を充実させる。	生活アンケート等を行い、計画的に家庭学習に取り組んでいる児童の割合を80%以上に引き上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた家庭学習の時間について共通理解を図り、それに応じた学習課題を設定する。 ・学校通信、学年通信、パンフレット等を使って、家庭学習について保護者への啓発を継続的に行い、よりよい家庭学習の習慣を身につけさせる。 ・児童が進んで家庭学習に取り組むような手だてを工夫すると共に、自主学習など発展的な家庭学習の内容を充実させるよう、個に応じた支援をする。 	4・3・2・1	
授業の準備物や宿題・提出物の確認を自分の力でできるようにする。	生活アンケート等を行い、「授業の準備物や宿題・提出物の確認を自分の力でした」と答える児童の割合を80%以上に引き上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信や学年便りを通じて児童が自分の力で準備ができるように保護者への啓発を図る。 ・あらゆる機会に授業の準備や宿題・提出物を確認することの大切さについて指導する。 	4・3・2・1	

※評価欄の上段には、各具体的目標における数値目標の達成状況について記入する。下段には、達成状況を「4 十分できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった」で判断し、該当番号に○を付ける。